

令和4（2022）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

ブロック：中央ブロック

マルソウダ

海域	太平洋南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 浮魚資源部、和歌山県水産試験場、高知県水産試験場
----	-------	------	--

(1) 調査の概要

- ・ そうだがつお類としては、漁業・養殖業生産統計年報が利用可能である
- ・ 水産資源研は生物学的特性に関する情報収集を実施した
- ・ 和歌山県、高知県は漁獲統計調査および生物情報収集調査を実施した
- ・ 令和4（2022）年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲量等の更新および関連情報の収集を実施した

(2) データ収集状況

- ・ 令和3年漁業・養殖業生産統計による2021年のそうだがつお類の漁獲量は高知県が1,941トン、和歌山県が110トンであった。そうだがつお類にはマルソウダとヒラソウダが含まれる
- ・ 和歌山県では2007～2022年の紀伊水道内の定置網、2011～2022年の太平洋側の定置網の漁獲量を収集済み
- ・ 高知県では1972～2022年のひき縄と2000～2022年の大型定置網の漁獲量を収集済み
- ・ 高知県では、ひき縄のCPUEの値として1日1隻当たりの漁獲量を用いていたが、現場海域への来遊量をより反映した値とするため、単位時間当たりの漁獲量を把握する手法の確立に取り組んでいる

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：冬に生まれる発生群と夏に生まれる発生群がある。前者の発生海域は熱帯から亜熱帯、後者は日本近海と推測されている。夏季に北上回遊を、秋季に南下回遊を行い、潮岬以南で越冬する（新谷 1999）
- (2) 年齢・成長：尾叉長は、生後45日で18.0 cm、0.5歳で25.0 cm、1歳で29.0 cm、1.5歳で33.5 cm、2歳で35.5 cm、2.5歳で37.0 cmに成長し、寿命は3歳未満である。尾叉長(x ; cm)と体重(y ; g)の関係は以下の式で表される
$$y = 0.0017x^{3.6752}$$
- (3) 成熟・産卵：高知県周辺での産卵期は4～9月で、6～7月が盛期と考えられており、1～2歳が産卵を行う（新谷 2001）
- (4) 被捕食関係：甲殻類や魚類などさまざまな餌生物を餌として利用している

(4) 備考

・本種の漁獲量は黒潮の離接岸や水温によって変動するほか（林 2014、梶 2015）、生息域が広範囲にわたる回遊魚であることから（Collette and Nauen 1983）、資源水準や動向の推測は現状では困難であるため、引き続き漁獲状況や生物データの収集を継続する必要がある

引用文献

Collette and Nauen (1983) Scombrids of the world. An annotated and illustrated catalogue of tunas, mackerels, bonitos, and related species known to date. FAO species catalogue, 2, FAO Fisheries Synopsis, pp.137.

林 芳弘 (2014) 室戸岬沿岸の大型定置網におけるマルソウダの漁獲状況、黒潮の資源海洋研究, **15**, 63-70.

梶 達也 (2015) 高知県海域におけるマルソウダ漁況の変動と気候のレジームシフト、黒潮の資源海洋研究, **16**, 65-73.

新谷淑生 (1999) 標識放流から推定される太平洋岸におけるマルソウダの回遊、日本水産学会誌, **65**, 1078-1083.

新谷淑生 (2001) 高知県太平洋海域におけるマルソウダの年齢、成長、成熟および寿命、日本水産学会誌, **67**, 429-437.